

# フィンランド・ グラスアート

輝きと彩りのモダンデザイン



COLLECTION  
KAKKONEN

2023.  
**6.24 sat -**  
**9.3 sun**

東京都庭園美術館  
TOKYO METROPOLITAN TEIEN ART MUSEUM

開館時間 | 10:00-18:00 (入館は閉館の30分前まで)

休館日 | 毎週月曜日 \*ただし、7月17日(月・祝)は開館、7月18日(火)は休館

主催 | 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館

共催 | S2株式会社

特別協力 | コレクション・カッコネン

協賛 | フィンエア、フィンエアカーゴ、イッタラ



後援 | フィンランド大使館、フィンランドセンター

年間協賛 | 戸田建設株式会社、ブルームバーグ L.P. Bloomberg Van Cleef & Arpels

上、カイ・フランク《ヨーロッパナ [KF226]》1953年 ヌータヤルヴィ・ガラス製作所

下、ティモ・サルパネヴァ《蘭 [3568] [3868]》1953年 イッタラ・ガラス製作所 すべてコレクション・カッコネン所蔵 撮影: Rauno Träskelin

\*本展における作家名、作品名および関係機関名称の一部は、イッタラの表記とは異なる場合がございます。

Exhibition period | Saturday, June 24 -

Sunday, September 3, 2023

Hours | 10:00-18:00 Last admission at 17:30

Closed | Mondays (except July 17), July 18



# Finnish Glass Art

Sparkle and Color  
in Modern Design



## プレス関係各位

日頃より東京都庭園美術館をお引き立ていただき誠にありがとうございます。

当館では、2023年6月24日（土）～9月3日（日）の会期で「**フィンランド・グラスアート 輝きと彩りのモダンデザイン**」展を開催いたします。夏の邸宅美術館に透明感と輝きを放つ多彩な作品が自然光のもとに並びます。フィンランドの環境や歴史を背景に生まれたガラス作品の魅力、作品と対話するひとときをお楽しみください。ぜひ貴媒体にて本展をご紹介いただければ幸いです。

## 展覧会概要

### 雄大な自然が育んだ、洗練されたデザインと個性溢れる自由な造形

北欧・フィンランドは、広大な森と湖に代表される豊かな大自然を有する国です。機能性とともに洗練された美しさを誇るフィンランドの家具やインテリア、飲食器などのプロダクトは永く愛され、日本でも近年人気が高まり続けています。

1917年にロシアから独立したフィンランドは、ナショナリズムが高まる中、新しい国づくりと国民のアイデンティティを取り戻すために様々な側面でモダニズムが推進されました。その動向はガラスの分野も例外ではなく、1930年代にミラノ・トリエンナーレや万国博覧会などの国際展示会、それらに向けた国内コンペティションが数多く開催されるうちに、よりモダンなデザイン性が求められるようになりました。デザイナーが手がけた芸術的志向の高いプロダクト「アートグラス」において、フィンランドらしさが芽生えていったのもこの頃のことでした。

第二次世界大戦後、若きデザイナーたちがしのぎを削って提供した「アートグラス」は国家復興の一翼を担い、1950年代に入るとフィンランドのグラスアートは更なる発展を遂げ、国際的な名声を得て世界のデザイン界にその存在を顕示しました。本展は、デザイナーが自ら「アートグラス」の名のもとにデザインし、職人との協働作業によって生まれた作品に着目した展覧会です。1930年代の台頭期から1950年代に始まる黄金期、そして今に至る8名のデザイナーと作家が手がけた優品約140件に焦点を当て、フィンランド・グラスアートの系譜を辿ります。

表現者たちはガラスという素材といかに対峙し、探求し、創作の可能性を押し広げていったのか—変わらず輝き続ける作品の魅力とともに、各時代・各作家たちのガラスへの信条と挑戦、込められたメッセージや想いを垣間見ることができる機会です。



## 開催概要

展覧会名	フィンランド・ガラスアート 輝きと彩りのモダンデザイン
英文タイトル	Finnish Glass Art Sparkle and Color in Modern Design
会期	2023年6月24日（土）-9月3日（日）
開館時間	10:00-18:00 *入館は閉館の30分前まで
休館日	毎週月曜日 ただし7月17日（月・祝）は開館、7月18日（火）は休館
会場	東京都庭園美術館 本館+新館
入館料	一般=1,400（1,120）円/大学生（専修・各種専門学校含む）=1,120（890）円 中・高校生=700（560）円/65歳以上=700（560）円 ※（ ）内は20名以上の団体料金 ※小学生以下および都内在住在学の中中学生は無料 ※身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその介護者2名は無料 本展は日時指定の事前予約制です。
主催	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館
共催	S 2 株式会社
特別協力	コレクション・カッコネン  COLLECTION KAKKONEN
協賛	フィンエアー、フィンエアーカーゴ、イッタラ 
後援	フィンランド大使館、フィンランドセンター
年間協賛	戸田建設株式会社、ブルームバーグL.P. 

※記載内容に変更が生じる場合があります。  
※新型コロナウイルスへの感染および拡散を防止し、皆さまに安心してご鑑賞いただくために必要な防止対策を講じております。ご来館時には事前に当館ウェブサイトをご確認ください。  
※その他、最新情報につきましてはウェブサイトにて随時お知らせいたします。

東京都庭園美術館 東京都港区白金台5-21-9 050-5541-8600（ハローダイヤル）

TEL. 03-3443-0201（代表）/ FAX. 03-3443-3228 [www.teien-art-museum.ne.jp](http://www.teien-art-museum.ne.jp)

Follow us on Facebook, Twitter, Instagram@teienartmuseum

アクセス [目黒駅] JR 山手線東口/東急目黒線正面口より徒歩7分

[白金台駅] 都営三田線/東京メトロ南北線1番出口より徒歩6分

### 展覧会広報 お問い合わせ先

東京都庭園美術館 広報担当：板谷、齊藤 TEL. 03-3443-0201 Mail. [press@teien-art-museum.ne.jp](mailto:press@teien-art-museum.ne.jp)

## 巡回情報

この展覧会は、当館ほか記載の会場へ巡回します。

富山市ガラス美術館 2022年11月3日（木・祝）-2023年1月29日（日） **※会期終了**

茨城県陶芸美術館 2023年3月18日（土）-6月11日（日）

山口県立萩美術館・浦上記念館 2023年9月16日（土）-12月3日（日）

岐阜県現代陶芸美術館 2023年12月16日（土）-2024年3月3日（日）

兵庫陶芸美術館 2024年3月16日（土）-5月26日（日）

展覧会公式インスタグラム

[https://www.secure.instagram.com/finnish\\_glass\\_art\\_exhibition/](https://www.secure.instagram.com/finnish_glass_art_exhibition/)

展示構成

**第1章 フィンランド・ガラスアートの台頭**

1917年ロシアからの独立を果たしたフィンランドでは、ガラス界を含む様々な側面でモダニズムが推進されました。1930年代に入ると、各ガラス製作所はミラノ・トリエンナーレや万国博覧会等への参加に向けた国内コンペティションを数多く開催するようになり、優秀なデザイナーたちがガラス制作に携わるようになりました。この台頭期を代表し、世界のモダンデザイン界に「フィンランド・ガラスアート」の名を刻んだパイオニアとも言うべき、デザイナーの作品をご覧ください。

出品作家  
アルヴァ・アアルト、アイノ・アアルト  
グンネル・ニューマン



**第2章 黄金期の巨匠たち**

第二次世界大戦後、フィンランドを取り巻く状況は困窮を極めました。その逆境はフィンランド人としてのアイデンティティの確立を促し、高品質かつデザイン性溢れる製品が国際社会において自国を立て直す原動力となりました。

1950年代以降、国際的な認知と外貨の双方の獲得に貢献できるとして、高級志向の強いガラス製品「アートグラス」、そして「ユニークピース」は国際展示会への出品が増えていきます。その結果、輝かしい名声を得るとともに、デザイン大国・フィンランドとしての評価を確固たるものにしました。

黄金期と呼ばれる1950年代以降、生涯を通してフィンランド・ガラスアートを支えた4人のデザイナーを取り上げます。彼らが職人と協働で生み出した優品の数々をお楽しみください。

カイ・フランク／タピオ・ヴィルツカラ  
ティモ・サルパネヴァ／オイヴァ・トイッカ



**第3章 フィンランド・ガラスアートの今**

各ガラス製作所とデザイナー、職人との信頼関係の中で数々の名品が誕生してきたフィンランドのガラスアート。しかしグローバル化が進む現代社会において、制作のシステムが変わり、製作所はデザイナーを外から招聘するスタイルに切り替える等、その状況は変化しつつあります。

現在精力的に活動している作家の中から、伝統技術に学びながらも独自のアプローチを見出し、優れた新たな芸術性を生み出している2名の作品を紹介します。

マルック・サロ／ヨナス・ラークソ



作品キャプション

- 1.アルヴァ&アイノ・アアルト《アアルト・フラワー [3031,3032,3033,3034]》1939年 カルフラ/イッタラ・ガラス製作所
  - 2.グンネル・ニューマン《賢明な乙女たち》1937年 リーヒマキ・ガラス製作所
  - 3.ティモ・サルパネヴァ《森の太陽》1950年代末 イッタラ・ガラス製作所
  - 4.カイ・フランク《クレムリンの鐘 [KF1500,KF500]》1956年 ニュータヤルヴィ・ガラス製作所
  - 5.マルック・サロ《缶詰のフラワーパワー》2009年 ニュータヤルヴィ・ガラス製作所
  - 6.ヨナス・ラークソ《リコリスみたい》2012年、2013年 ラシスミ
- すべてコレクション・カッコネ所蔵 撮影：Rauno Träskelin

## 関連プログラム

会期中に開催される展覧会プログラムは随時追加される予定です。

詳細は決まり次第、当館ウェブサイトでお知らせいたします。

### ① ゆったり鑑賞日

#### 障害がある方も、ない方も、美術館をゆっくり楽しみませんか？

全体の入館人数を制限し、普段よりもゆとりのある環境で鑑賞できる一日です。

多くの人で賑わう美術館に不安がある方も、車椅子の方や介助等が必要な方も、安心してお過ごしいただけます。

日時：8月9日（水）10：00－18：00（最終入館17：30）

\* 通常のご来館手続きと同様、オンラインによる事前予約制です。（7月中旬より発売開始予定）

詳細は当館ウェブサイト「フラットデー」のページをご覧ください。

\* 障害者手帳等をお持ちの方は事前予約不要です。ご来館当日窓口でお申し出ください。

### ② ベビーデー

#### 赤ちゃんと暮らす家族のための特別開館日

休館日の美術館を特別に開室します。夏休み中のきょうだいもぜひ一緒にご来館ください。

日時：8月21日（月）10：00－15：00

対象・定員：赤ちゃんとその保護者60組

\* 申込方法等、詳細・最新情報は当館ウェブサイトでお知らせいたします。

## 撮影について

本展会期中は、**本館内の一部と新館で写真撮影が可能**です。

撮影の際は以下の諸注意を必ずご確認ください、館内スタッフの指示に従ってください。

1. まわりのお客さまの鑑賞の妨げとなるような行為はご遠慮ください。
2. フラッシュ・レフ板・三脚・自撮り棒・望遠レンズのご使用はご遠慮ください。
3. 安全確保のため、撮影をお断りする旨お声がけする場合がございます。
4. 動画の撮影はご遠慮ください。
5. 撮影機器の落下や展示品に触れてしまう恐れがあるため、展示品の真上からの撮影や身を乗り出しての撮影はご遠慮ください。
6. 撮影は非営利目的の個人利用に限ります。商業撮影は事前の申請が必要です。
7. SNS等での写真の公表にあたって、写り込んだ他の来館者の肖像権に触れる場合があります。当館では責任を負いかねますのでご了承ください。
8. その他、作品や建物に危険が及ぶ行為は禁止しています。

## 公式カタログ

「フィンランド・ガラスアート 輝きと彩りのモダンデザイン」

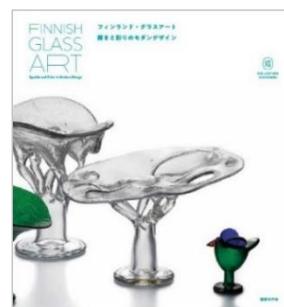
公式カタログ

**当館ミュージアムショップ、書店にてお買い求めいただけます。**

書名：フィンランド・ガラスアート 輝きと彩りのモダンデザイン

判型：A4変型判、232ページ 発行：株式会社国書刊行会

販売価格：税込2,970円（定価）



ミュージアムショップでは当館での会期中に限り税込2,700円にて販売（会場特価）

◎広報用画像



1	2	3	4
5	6	7	
8	9	10	
	11	12	13

1.アルヴァ&アイノ・アアルト 《アアルト・フラワー》1939年 カルフラ/イッタラ・ガラス製作所  
2.グンネル・ニューマン 《ストリーマー》1947年 ヌータヤルヴィ・ガラス製作所

3.グンネル・ニューマン 《カラー》1946年 リーヒマキ・ガラス製作所  
4.グンネル・ニューマン 《白樺の森》1946年 リーヒマキ・ガラス製作所  
5.カイ・フランク 《アートグラス、ユニークピース》1966年  
ヌータヤルヴィ・ガラス製作所  
6.カイ・フランク 《ヨーロッパナ》1953年 ヌータヤルヴィ・ガラス製作所  
7.カイ・フランク 《アートグラス、ユニークピース》1970年代前半  
ヌータヤルヴィ・ガラス製作所  
8.ティモ・サルパネヴァ 《アーキペラゴ》1978年 イッタラ・ガラス製作所  
9.ティモ・サルパネヴァ 《カヤック》1954年 イッタラ・ガラス製作所

10.ティモ・サルパネヴァ 《蘭》1953年 イッタラ・ガラス製作所  
11.マルック・サロ 《アートグラス、ユニークピース》2017年  
ラシコンパニア  
12.マルック・サロ 《アートグラス、ユニークピース》2017年  
ラシコンパニア  
13.ヨナス・ラークソ 《ジグザグ》2014-2017年 ラシスミ

コレクション・カッコネン所蔵 撮影：Rauno Träskelin  
※全て作品キャプション記載の後ろに上記クレジットを入れてください